

一流を目指す 現代の韋駄天

マリンスポーツの聖地「浜名湖・遠州灘」をホームグラウンドとし、活躍するスペシャリストたち。浜松出身の英雄である田畑政治と古橋廣之進のレガシーを受け継ぎ、その道の頂点を目指す。

その道の

What's

ウェイクボードとは、モーターボートに牽引されながら、ボードで水上を滑り、ジャンプなどの技を決めるマリンスポーツ。

松永彩華さん(所属:金子機械)
2017年 香港ウェイクフェスタ 3位
2017年 関西東海ブロック 琵琶湖大会 4位
2017年 日本ウェイクシリーズ アマツア- 山中湖大会 4位
2017年 日本ウェイクシリーズ アマツア- 芦屋大会 準優勝
2017年 全日本選手権大会 優勝 Pro資格取得



加藤敏子さん(所属:金子機械、Wind box)
2014年 AMA TOUR 第1戦 琵琶湖3位
2014年 関西東海ブロック大会 琵琶湖3位
2014年 AMA TOUR 第3戦 北海道3位
2014年 関西東海ブロック大会 浜名湖 2位
2014年 アマツア-ランキング4位 Pro資格取得
2017年 JWBA公認PROツアーランキング8位

水上を豪快にジャンプし、トリックを決めるウェイクボードの爽快感に虜

浜名湖をホームグラウンドとする、プロウェイクボーダーの「加藤敏子さん」と「松永彩華さん」のスペシャル対談。今、彼女たちが目指すものとは。

お二人は同じチームに所属されていますが、どのような関係ですか？

（加藤さん）練習では、自分の競技が美しいかを客観的に見るために、ボートに乗って動画を撮ってもらいます。お互いにアドバイスしあい、切磋琢磨しながら技を磨き合っています。

（松永さん）私はプロ資格を昨年取得したので、今年からようやく加藤さんと同じプロとしての活動が始まります。これからライバルですね。

大会ではたくさんさんのグラウンドを体験されてきたと思いますが、浜名湖のコンディションは？

（加藤さん）山に囲まれているので場所によっては風が防げ、湖面が滑らかです。日照



Wakeboard

加藤敏子さん & 松永彩華さん



(左)加藤敏子さん
(右)松永彩華さん

時間も長く、汽水湖で水温も高め。一年を通してウェイクボードを楽しめます。環境としてはとても恵まれていますよ。

（松永さん）ウェイクボード以外のさまざまなマリンスポーツも同じ場所で行うことが出来、湖面が少し波打ったり、なだらかになる時もあります。大会になると良いコンディションとは限らないので、あえて少し湖面が荒れているところで練習することがあります。色んなシーンを想定して練習できるのも魅力です。

目標や今後の取り組みは？

（加藤さん）私は映像編集の仕事もしているので、浜名湖のロケーションでウェイクボードの魅力を紹介するためにDVDを作ろうと思っています。スポーツショップや街のビジョンなどで映像を流し、多くの人々がウェイクボードを自然に目にする機会を増やしたいです。もちろんSNSでたくさん動画配信をしているのですが、十年後、数十年後も、残していけるようなメディアにしたいと考えています。

また、毎年行われているJWBA（日本ウェイクボード協会）公認、関西東海地区ブロック浜名湖大会の実行委員として大会運営にも携わっています。この大会は、全国的に珍しく浜名湖競艇場で開催され、プロ資格がかかっている全日本大会の地区予選でもあるため、各地区のウェイク

ウィンドサーフィンは、私の人生を豊かにしてくれた最高のスポーツ

スピードの爽快感とともに、自然の微妙な変化を肌で感じる、ウィンドサーフィンの魅力にはまった尾崎はる奈さん。インストラクターやアクリル加工などの仕事を掛け持ちしながら家庭と両立し、プロウィンドサーファーとしての活動も精力的に行う。ホームグラウンドは浜名湖。遠浅で大きな波も立たない初心者向けの

What's

ウィンドサーフィンとは、ボードに付けたセイルを操ってバランスを取り、風向きを計算しながらセーリングを楽しむマリンスポーツ。

尾崎はる奈さん(所属:Black team Japan)
2009年 JWAスラロームプロ登録
2009年 JWA年間ランキング3位
2010年 JWAジャパンサーキット浜名湖カップ2位
2010年 JWA年間ランキング 2位
2011年 PWA WORLD CUP Vietnam
2016年 ミクロネシアオープン2位
2016年 Miyako classic2位



Windsurfing

尾崎はる奈さん

場所でありながら、関西・関東から多くの選手が集まるほど上級者にとっても人気の場所だ。夏にはサマルという南寄りの風、冬には遠州の空っ風という西風が吹き、全国的にみて高確率で強風が吹くためスピードが非常にしやすいのだ。

尾崎さんの目標はウィンドサーフィン世界最高峰の大会「PWAワールドカップ」に出場し好成績を残すこと。それと同時にウィンドサーフィンの魅力を子どもたちに伝えていくことだ。ウィンドサーフィンをするようになってから風の向きや潮の流れ、天候の変化にとっても敏感になったという。このような感覚的に身に付くものは子どもたちの成長にとっても大切。自然の力を身体で感じるきっかけを今の子どもたちに提供していきたい。それがプロとしての使命であり、ウィンドサーフィンを活性化していくうえでの義務だと考えている。



板1枚、波打ち際のエキサイティングなスポーツ スキムボードの魅力を広げたい



What's

スキムボードとは、木の葉型のボードを持って砂浜から波に向かって走り、すばやくボードを落として飛び乗り、波に乗って浜に戻るというマリンスポーツ。

竹中雄一さん(スポンサー:Grape Skimboards、FREAK Traction、QUIK SILVER、整体の伊達)
2009年 第4回全日本スキムボード選手権大会 優勝
2010年 M-1 SKIMBOARDS FESTIVAL 優勝
SKIM TRAIL SECRET CUP 優勝
2012年 SKIM ONE PRO 優勝
Autumn Skim Contest 優勝
Beach Clean CUP 優勝
2013年 第8回全日本スキムボード選手権大会 4位
SKIM ONE PRO 優勝
2014年 第9回全日本スキムボード選手権大会 優勝
2016年 第11回全日本スキムボード選手権大会 優勝



全日本選手権大会で3回優勝した経験を持つスキムボーダーの竹中雄一さん。スケートボードが好きで、サーフィンに憧れていた中学時代、スケートボードとサーフィンを掛け合わせたような珍しいマリンスポーツ「スキムボード」に出会い、運命を感じたという。遠州灘の海岸で毎日のようにスキムボードを楽しみ、いつしかプロを目指すように。今ではプロ選手として数々の大会で好成績を収めている。また一般社団法人日本スキムボード協会主催スキムキャンプのコーチを務め、日本チャンピオンならではのテクニックを指導している。

竹中さんの目標は2つ。1つ目は全日本選手権大会で優勝し続けること。そのために仕事と両立しながら、日々遠州灘での実践練習や浜名湖でのウェイクスキムを使用したトレーニングで技術に磨きをかける。2つ目はスキムボードの認知度を高め、競技人口を増やしていくこと。そ

Skimboard

竹中雄一さん

の取り組みとして、技術向上を目的としたスキムキャンプのほかに、気軽に体験できる初心者向けイベントも開催したいと考えている。スキムボードは主に足がつく砂浜の波打ち際で行われるため、子どもでも初心者でも恐怖心なく始めやすい。その魅力を生かし、体験する場を提供することで次世代のスキムボーダーの育成に貢献していきたいと語る。